

【第69回ラジオ番組審議会議事録】

1 開催日時

平成30年7月31日（火） 17時00分～18時00分

2 開催場所

BAN-BAN ネットワークス本社 1階会議室

3 委員の出席

委員総数 7名

出席委員数 7名

出席委員の氏名 遠藤由美子 河合勝彦 島崎純子 竹内茂雄 細田享子
山尾昌弘 吉原恵子 （敬称略）

放送事業者側出席者名 山根直也 大竹良次 藤井良一 江村直樹 石川麻優

4 議題 「ふぁみラジ」について

放送日時：平成30年6月6日（水） 10時30分～10時55分

出演：北原 真紀

ゲスト：一般社団法人ママ脳総合研究所 理事長 恵 夕喜子 さん

- ① 全体の感想をお聞かせください。
- ② ゲストトークは子育て世代に共感できる内容でしたか？
- ③ 子育て応援番組として、今後に期待することをお聞かせください。

5 議事の概要

- ・番組審議は、事前に番組聴取の上、議題について話し合った。

6 議事の内容

- BAN 司会 それでは、本日の審議に入ります、まずは番組について担当主任よりご説明いたします。
- 担当主任 今回は毎週水曜日のあさ10時30分から放送の「ふぁみラジ」を審議させていただきます。今春から始まった番組です。これまでBAN-BAN ラジオでは、子育て世代に特化した番組がなかったことから、加古川在住で子育て中の北原真紀さんに出演してもらい、子育て世代に向けた番組をスタートしました。加古川駅前にあるコミュニティスペース「びいぶらす」であさ10時30分から放送をして、その後にワークショップをするという流れです。びいぶらすに集まってもらうことで、子育てしている方同士が情報交換したり、つながりを持ったりしてもらえたらという狙いがあります。今回のゲストは、北原真紀さんも関わっているNPO法人ママの働き方応援隊を立ち上げられた、恵夕喜子さんを迎えてお話を伺っています。番組のゲストトーク部分は、番組 Facebook ページでもライブ配信していて、生放送で聞けない方にもアクセスしていただいています。今回の恵さんの動画は過去最高のアクセス数でした。
- 担当次長 びいぶらすを活用したいという思いから、リアルに繋がれる場を作れたらと立ち上げた番組です。平日水曜日の朝なので、小さい子供のいる親御さんが多いかと思います。Facebook ページのライブ配信は、ラジオの補完の意味でスタートしましたが、映像もあることからたくさんの方のアクセスをいただいています。
- BAN 司会 では、全体の感想をお聞かせください。
- A 委員 聞きやすく内容も面白いと思いながら聞いていました。オープニングトークで「こんなにすごい人がゲストに来る」と言っただけで名前紹介が無かったですが、あのタイミングでお名前だけでも紹介してほしかったです。ゲストコーナーでは、お互い知り合いということもあり、和気藹々とした雰囲気が進んでいってました。二人の間では当たり前の話題なのか途中で、赤ちゃんのエンパシーの話が出てきて、それは少し怪しいかなと思いました。ゲストの方が話をうまく戻されていたのでよかったです。
- B 委員 全体的に和やかな雰囲気良かったですが、内容があまり伝わってこなかったです。ゲストの紹介で出てきた「ママ脳総合研究所」も、耳で聞いただけでは分かりづらかったです。ママが赤ちゃんと一緒に社会に進出するという内容だったと思いますが、ゲストと北原さんがツーカーなせいか、話が飛び飛びで何の話題か分かりづらかったですね。
- C 委員 ママの働き方の話は日本の今の大きなテーマでもあるのでよかったですと思

ます。北原さんとゲストの恵さんの関係性から北原さんがゲストに遠慮しているのか、「ママの働き方」というよりも、恵さんのしている活動の紹介のように感じました。ママが赤ちゃんと一緒に隙間の時間を使って、SNSを活用するというのが考えられない働き方の内容だったので、そんな話題が聞けたのは良かったです。

D委員 わたしは子育てをしながら仕事をしてきたので、子どもを産んでも、また仕事に戻るのが当然と思っていました。ママ友と話をしていると、結婚して仕事をやめて、子どもが生まれたら仕事ができなくてという話を聞いて、びっくりしていました。ラジオを聴いていると男女雇用機会均等法が始まって、職場復帰する女性は1割ほどしか増えないという話をされていたので、女性が社会に出て行くために企業などが取り組むべき問題の話をしてくれるのかなと思って聞いているとそうではなく、じゃあ、お母さんが子ども連れて仕事などに出かけられる環境の話をしてくれるのかなと思ったらそうでもなく、聞いていると赤ちゃん先生の話が出てきました。聞いていると、赤ちゃん先生という活動があるのが分かって、更に聞いていると恵さんの活動の話になりました。一般の女性の話をされるのかなと思っていたら、恵さんの活動の話になって、恵さんのところに入らないと赤ちゃんと一緒に働けないのかなと感じました。ワークショップで話を聞けば社会に出て行くヒントがもらえるのかも知れませんが、番組を聞いているだけでは、自分は子どもを連れて社会に出て行くことはできないのかなと思ってしまいました。聞いているお母さんが「子どもを連れて明日から頑張るぞ」と思うにはテーマが大きいように感じました。であれば、恵さんの活動をもっと詳しく分かりやすく紹介しても良かったと思います。

E委員 わたしの知り合いにママの働き方応援隊に入っている人がいて、活動自体分かっている部分があったので、違和感なく聞くことができました。「ママ脳総研」がどんな字を書くのか分からず、どんな活動をしているのかも分からなかったので、フォローがほしかったです。トーク中で、1%という数字が出てきました。内容を聞いていると1割の言い間違いと分かりますが、北原さんからそれについてのフォローが欲しかったです。ゲストの方の話し方で「～じゃね？」など、くだけすぎではと感じる部分がありました。

F委員 番組の中で繰り返し出てきた言葉で、「緊張」という言葉が3回、「奄美大島」という言葉も3回出てきてそれが印象に残っています。「ゲストがすごい方」という言葉ばかりが出てきて、どうすごいか分かりにくかったです。「赤ちゃん婚活」という言葉がありましたが、どういう内容なのかイメージできず、ほかの恵さんの活動についてもほとんどイメージできず、

奄美大島から来た方という印象でした。番組はまずテーマがあって、それに対するパーソナリティが発するメッセージがあって、それを補強するゲストという構図が良いと思います。25分という短い番組のなかで、恵さんの活動を詳しく紹介するよりは、その活動の中から「じゃあ、私たちはどうすればいいの？」という具体的な答えや分かりやすいテーマがあればよかったですと思います。全体を聞いていると、仲良しのお母さん同士が久しぶりに会って喋っているという印象を受けました。ゲストの使い方が勿体無かったと思います BGM など全体的な雰囲気は良かったのですが、番組の応援のメッセージテーマを絞った方がよかったですね。

BAN 司会 担当主任に質問ですが、今回はゲストとの関係性からこのような進行になってしまったのでしょうか。

担当主任 ゲストがスタジオに入られる前から、緊張すると北原さんは言われていたので、今回は特にそのような面が前面に出たのではないかと思います。ただ、ゲストのブッキングも北原さんをお願いしているので、どの回も和やかさとしては同じ感じですが。ファイナンシャルプランナーの方をゲストに迎えたときは、もう少し一般化した話でした。今回は特に、北原さん自身もママの働き方応援隊の活動をされていて、加古川校の代表もされているので、分かっている人同士の話になってしまったのだと思います。

担当次長 前は、バンディオンセ加古川の滝野さんを招いて、子どものサッカー教室についてお話を伺ったのですが、そのときは北原さんも知らない内容だったので、内容を聞き出そうという姿勢でした。今回の放送では、北原さんの言葉数が少なく、いつもの半分以下でした。9月には加古川市長をゲストに迎えるので、今回のように「すごい人」にならずに進行しないと、市長からのメッセージも伝わらなくなってしまうので、この審議の内容を生かしていければと思います。

G 委員 最初聞いたときに出てくる言葉が分からなくて、何の話をしているんだろうという印象でした。「ママ脳総合研究所」は聞いているだけでは分からなかったです。北原さんはゲストの紹介をちゃんとしなければいけないし、ゲストも自分の紹介をしっかりとする必要があります。分からなくて言葉を検索して、番組も7回聞きました。子育てから離れているので、赤ちゃん連れで何をするのかと疑問に思いました。ママの働き方がテーマでしたが、恵さんのお子さんは何歳くらいなんだろうと気になりました。ゲストが自己紹介のときに、そういうことも触れてほしかったです。

BAN 司会 今後、もっと番組の内容を向上させるために提言や感想などありましたらお願いします。

G 委員 今回は、一対一のトークでしたが、ゲストの事を全く知らないアシスタン

トがいると、知らない人の視線が入って分かりやすくなるのではないでしょうか。

- BAN 司会 アシスタントは、どの世代が良いと思われますか。
- G 委員 先輩がいいのでは。同世代だと同じ視線になってしまうので、話を聞いて「今はそうなんだね、そんな風が変わってきてるんだ、面白いね」と客観的に聞ける人がいいと思います。
- D 委員 番組の後にはワークショップが実施されるということですが、今度は市長が来られるということなので、事前に市長への質問を募集しておくなど、ゲストに質問を投げかけることができる仕掛けをすると良いのではないのでしょうか。
- E 委員 Facebook ページでライブ配信をしているのであれば、そこについてのコメントを拾ってトークをしてもいいのではないのでしょうか。
- 担当次長 ライブ配信時よりも、録画されたものの視聴の方がビュー数が伸びるので、コメントがあまりつかないんです。
- 担当主任 おもちゃコンサルタントの方がゲストで、びいぷらすでは、木のおもちゃをたくさん並べて来た方に遊んでもらえるようにしていたところ、放送後にも遊びに来てくださる方の姿が見られました。
- C 委員 ゲストコーナーに、赤ちゃんを連れたママがスタジオに入って直接質問することはできないのでしょうか。考え方だけで、具体性がなかったように感じます。ラジオは普通、一回しか聞けません、一度聞いただけでは分からなかったです。
- F 委員 ワークショップは必ずセットになっているのでしょうか。
- 担当主任 ゲストによって実施しないときもありますが、何らかのワークショップを行えるようにしています。
- F 委員 セットになっているのならば、公開番組に行けばお得なワークショップもあるというように繋ぐのがいいのではないかと思います。25分という短い時間であれば、「ママを応援するにはどうしたらいいんだろう」というような深く考え込むようなテーマではなく、具体的な情報の方が良いのではないのでしょうか。今回は、理論を語ろうとしながら、具体的な情報も語ろうとして分かりにくくなってしまったのだと思います。
- 担当次長 最初、番組の放送尺を決める際、30分では収まりきらないので1時間にしようかという意見も出ましたが、ワークショップをメインにということで、番組30分、ワークショップ1時間という時間配分にしました。
- E 委員 このあと来てくれたらこんなことができますよ、と言えれば、興味のある人に集まってもらえますね。
- 担当主任 直接子育てに関わる内容のこともあれば、子育て世代の興味のありそうな

内容でそれをきっかけに集まってもらうという二つのタイプがあるかと思
います。

A 委員 子育て世代も幅が広いです。こどもの年代、人数、仕事をしているか、し
ていないかなど、ターゲットを回毎に変えてもいいのではないのでしょうか。
全体的に、番組のターゲットは就学前の子どもを持つ専業主婦なのかなと
感じました。

D 委員 小さい子どもを連れて社会に戻れないときは、そのときの悩みがありまし
たが、仕事に復帰すると、今度は子どもをどこに預けようばかりで、毎日
戦争のようでした。その時どきの悩みがあると思います。

A 委員 悩みに寄り添うというのが応援だと思います。今は、北原さんのネットワ
ークでゲストをブッキングしているということですが、この年代、この悩
みにはこのゲストというマッチングができれば面白いと思います。

F 委員 わたしも二人育てましたが、自分より先に子育てを終えた人の意見はすご
く参考になりました。3歳児を育てているとか、中学生だとか、高校生だ
とか、今どの年齢の子どもを持っているかに関わらず、子育てを終えた人
の言葉は参考になりました。お母さんにとっては、子どものオムツがいつ
取れるかが一生の悩みのように感じていますが、子育てを終えた人からす
れば、いつかは取れるんだからと言ってもらえる。子どもが失敗しても「あ
ら愉快ね」と言ってもらえる。子どもが何をしても、経験した人は余裕を
持って子育てを見られる目がある。そういう人にこの番組に出てもらえれ
ば、今は日々追われていても、いつか通り過ぎれば余裕を持てるんだと元
気をもらえるのではないのでしょうか。

BAN 司会 本日も活発な議論ありがとうございました。

7 審議機関の答申又は改善意見に対して採った措置およびその年月日

なし

8 審議機関の答申又は意見を公表した場所における公表内容、方法、年月日

公表内容・・・審議の内容

公表方法

- ・事務所に備置き 平成30年9月6日（木）から
- ・番組「あさスパ!」において放送 平成30年9月6日（木）9時頃
- ・ホームページに掲載
平成30年9月6日（木）から

9 その他参考事項

なし